

11月(月)まで！ 倫理勉強会。「今週の倫理」が今日になり 申し渡りません。
学ぶ楽しさ実践中です。答へは11月の項に添えよう。

幸々蓮心アホ一鳥

2022. 11. 19～11. 25

今週の

倫理

11月のテーマ | 学ぶ楽しさ

1308号

かつて学校教育において、学ぶ楽しさや苦しさを教えてくれたのは、恩師であったのではないのでしょうか。

高校野球で最高の舞台といわれるのが、甲子園で行なわれる春・夏の全国大会です。勝ち進んでいくチームの監督も、負けて甲子園を去るチームの監督も、大会前までは、生徒たちに技術的な指導、メンタル的な指導を徹底してきたはずで

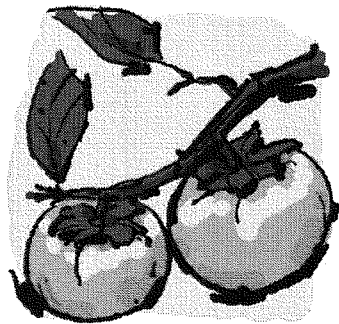
す。しかしながら、試合終了後のインタビューで監督が「私自身が生徒から今日の試合で数多くのことを学ばせて頂きました」と共通の言葉を述べるのはなぜでしょうか。

倫理研究所二代理事長・丸山竹秋は学校教育について次のような見解を述べています。

「学校の授業などもそうである。先生だからといって、そう分かっているのではない。生徒や学生に教えているから、ますます分かってくるのである。その「こと」についての信念も、そこから身にそなわって来る。教えるは教わるなり、である。分かっているから教えるということではなく、教えるということを通じてともに学んでいるうちに、ほんとうのものが分かってくるのである」

(『つねに活路あり』)

高校、大学と学生生活を無事に終えて、卒業証書を手にする。「勉強はこれで終わり」と手放しで喜んだ経験がある人もいます。しかし、学生生活が終了したからといって、そこで学びを止めてしまつては、その後の人生を全うすることはできません。学生時代は、学び方そのものを学んできたとも言えるのです。



謙虚な学びの姿勢が 自らの運命を切り拓く

「まじめにこれに師事して尋ねる人には、正しく答えてくれる。昔の人は天を父、地を母とよんだ。父母はその子の求めには、何物をも惜しまず与える。与えられぬのは、ま心からこれを求めないからである」

(『万人幸福の葉』)

大人になった今こそ学ぶべきことが多くあります。経営者が、学びを止めてしまえば、すぐさま、社会から取り残されて経営が成り立たなくなります。

▼ 倫理法人会の会員企業であるA社長が出張から会社に戻ってきた時のことです。残業を終えた新入社員が、工場に向かって深々とお辞儀をした光景を目にしたのです。一方でA社長が、父親でもあり先代の社長から受け継いだ会社に対して、感謝の念を抱きお辞儀をしようと思ったことは一度もなかったのです。本社屋や工場を引き継いだことは当たり前としか感じていなかったのです。新入社員の行動から謙虚な姿勢の大切さを学んだA社長。自らも、退社の際、お辞儀をするようになったのです。

A社長の会社への愛着の度合いが、やがて会社全体に良い雰囲気をもたらしていきましました。それは会社の業績となり、数字へと表れていったのです。

生涯学習とも言われる純粹倫理の学びは、日常の生活にこそ、その実践の場があります。家庭、職場を問わず、目の前で起こりうるすべての出来事を、自分に必要不可欠な教えであると捉えていきたいものです。